



勝連城跡周辺 回遊観光整備基本計画

平成27年3月
うるま市

自然や景観、歴史・文化等を地域全体で楽しむ「屋根のない博物館」を目指して



目 次

序章	1
1 計画策定の背景と目的	2
2 位置づけ	3
3 期間	3
4 対象区域	4
1 章 勝連城跡周辺における観光の現状と課題	5
1 上位・関連計画	6
2 位置と地勢	8
3 歴史的背景	9
4 人口・世帯数	10
5 産業	10
6 観光	11
7 観光資源	11
8 土地利用	17
9 各種意向調査	24
10 現況及び課題の整理	26
2 章 回遊観光全体整備方針	29
1 回遊観光を創出する意義と目指すべき姿	30
2 回遊観光の基本方向	31
3 整備方針	32
4 目標値の設定	33
5 回遊コース（モデルコース）と重点資源の設定	34
6 全体整備方針図	38
3 章 個別整備計画	41
1 回遊路（集落内道路）	42
2 回遊路（県道 16 号線）	44
3 重点資源①：カー（集落内）	46
4 重点資源①：村獅子	48
5 重点資源③：御嶽・拝所	50
6 観光サイン	52
7 休憩施設	54
8 駐車場	56

4 章	回遊観光プラン	59
1	まち歩きプログラム	60
2	農地の活用	62
3	海辺や漁港の活用	64
4	年中行事やイベントの活用	66
5	地域住民の生活・文化の活用	68
6	地域資源の維持管理	70
7	沿道等の美化活動	72
5 章	実現に向けて	75
1	計画の推進体制	76
2	整備スケジュール	77
資料編		79

序章

1 計画策定の背景と目的

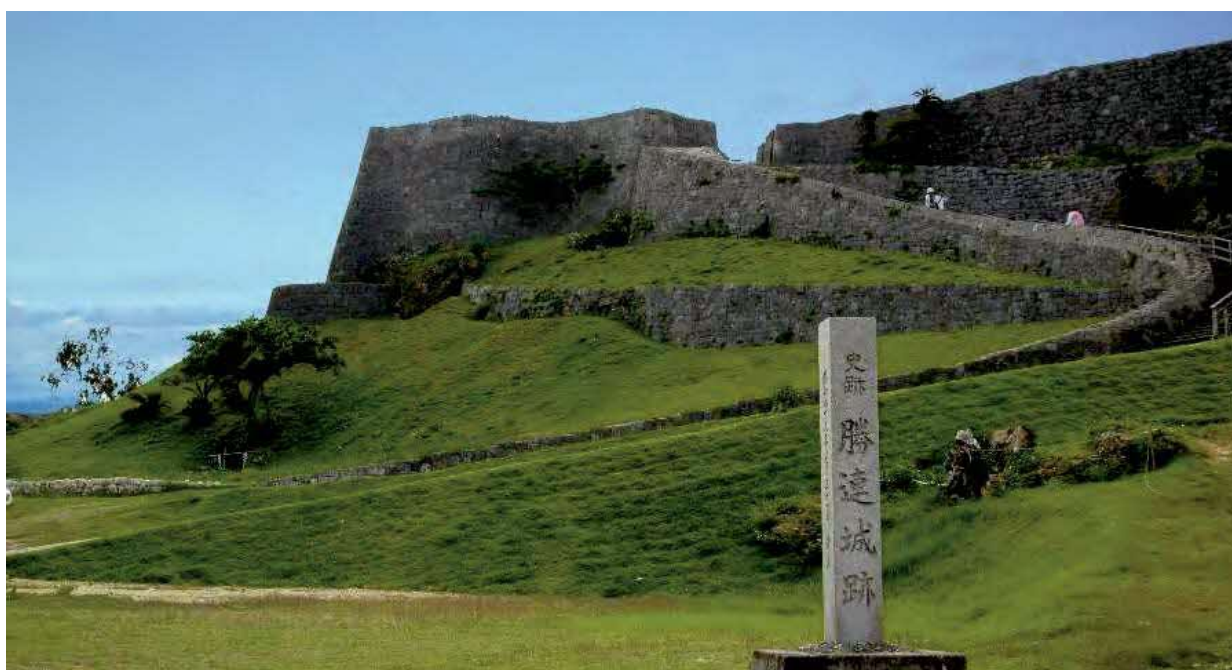
勝連城跡は、昭和 47 年（1972 年）に国指定史跡に認定され、平成 12 年（2000 年）に「琉球王国のグスク及び関連遺跡群」の一つとして、首里城跡などとともにユネスコの世界遺産に登録され、昭和 52 年度より保全修理整備事業による城郭内の整備が行われ、現在も城壁の石積み等の整備が進められています。

15 世紀、勝連城城主「阿麻和利」が登場したころ勝連は海外貿易で栄え、鎌倉に喩えられるほどの栄華を誇っており、また、阿麻和利は貿易以外にも自ら新たな漁法を考案するなど産業振興に力を注ぎ、民衆に慕われていたこと、この地域の文化や生活が高い水準にあったことが伝えられています。

その頃の勝連を指す言葉として、志が高いことを意味する「肝高」という美称が用いられており、現在においても周辺地域においては、肝高の精神性が語り継がれています。

現代に生きる我々の使命として、勝連城跡の誇りある歴史的文化的価値や周辺環境を守り、後世へ引き継ぐことはもとより、阿麻和利が強いリーダーシップと創造性を持って勝連の民を導いたように、市民や地域、行政などあらゆる主体が一体となって「肝高のこころ」を育み、勝連城跡を核とした持続可能な活用を図ることで、誇りと活力に満ちた地域力の向上を目指し、これを周辺地域はもとより、うるま市全域へと広げ、魅力あるまちの未来を拓くことが求められています。

本計画は、世界遺産である「勝連城跡」周辺の歴史・文化的資源を活かした回遊路の創出を目指し、良好な地域景観に寄与する回遊路・地域資源・観光サイン・休憩施設等の整備及び周辺回遊計画の検討をするとともに、当該回遊路が本市を訪れる観光客に広く利用されるものとなるための管理・運営体制構築の検討を含んだ基本計画とします。



2 位置づけ

本計画は、勝連城跡周辺文化観光拠点整備基本計画（平成 25 年 12 月策定）の推進施策⑰：「南風原集落の資源の活用と回遊ルートの創出」（同計画 73 頁他）に基づき、回遊観光の視点における整備計画として位置づけられ、「肝高の歴史浪漫を感じる交流空間の創出」を実現するため、全体整備方針を示すとともに、回遊できる観光振興を図っていくための回遊ルート設定や整備計画等を導くものです。

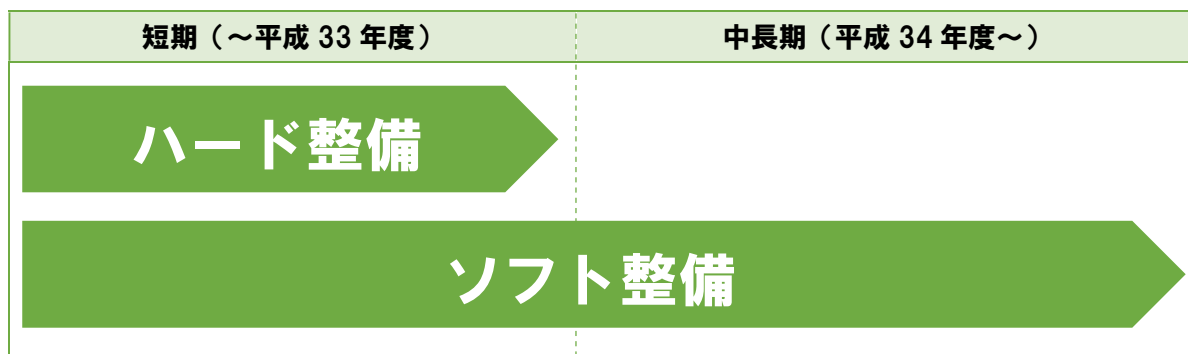


3 期間

本計画ではハード整備（道路舗装、休憩施設の整備）とソフト整備（人材育成、美化活動）でそれぞれ計画期間を設定します。

ハード整備の計画期間は概ね 7 年間（平成 33 年度まで）と定め、ソフト整備の計画期間は期限を定めません。

ただし、計画の進捗状況を把握するとともに、観光を取り巻く社会情勢の変化などにも的確に対応しながら、必要に応じて計画内容の見直しを行うものとします。



4 対象区域

本計画の対象区域は、うるま市南風原地区とします。ただし、州崎地区は除きます。

